

研究所彙報

一 二〇〇九年度研究所・所員リスト

- 教授 浅野 富美枝 (家族社会学・ジェンダー論)
教授 今林 直樹 (社会学・政治学)
教授 井上 研一郎 (近世美術史)
教授 犬飼 公之 (古代文学)
准教授 岩川 亮 (フランス語学・文学)
教授 菊池 勇夫 (日本近世史)
教授 九里 順子 (日本近代文学)
教授 松浦 光和 (心理学)
教授 森 雅彦 (西洋美術史)
教授 J. F. モリス (日本文化論)
教授 大平 聡 (日本古代史)
教授 新免 貢 (宗教学)
准教授 杉井 信 (社会人類学)

教授 高田 紀代志（科学史・科学論）

教授 田中 一裕（生態学）

准教授 土屋 純（地理学）

准教授 豊澤 弘伸（国語教育）

教授 八木 祐子（文化人類学）

准教授 割田 聖史（西洋史）

准教授 吉村 典子（西洋建築デザイン史）

客員研究員 阿部 隆（日本女子大学教授・人文地理学）

客員研究員 今高 義也（宮城学院中学校・高等学校教諭・日本思想史）

客員研究員 大石 泰夫（盛岡大学教授・日本古代文学）

客員研究員 大迫 章史（仙台白百合女子大学人間学部人間発達学科助手・近代日本高等教育史・

近代日本教育制度史・教育行政学）

客員研究員 後藤 純子（元大阪市立大学文学部助教授・インド学・宗教学）

客員研究員 佐々木 民夫（岩手県立大学教授）

客員研究員 富永 智津子（元宮城学院女子大学教授・東アフリカ・インド洋地域近現代史）

客員研究員 丸山 仁（宮城学院中学校・高等学校教諭・日本中世史）

客員研究員 山形 孝夫（宮城学院女子大学名誉教授・宗教学人類学）

客員 吉田 理 (宮城学院中学校・高等学校教諭・アジア文化論―古代中国史)
研究員

二 共同研究について

本年度の共同研究のテーマは次の通りである。

「南島における民族と宗教」

「多民族社会における宗教と文化」

「キリスト教文化の受容と変容」

「家族文化の総合的研究」

共同研究の成果として、次の冊子が刊行された。

『沖繩研究ノート』19

『多民族社会における宗教と文化』No.13

三 二〇〇九年度研究所活動報告

公開研究会

二〇一〇年一月二二日(金) 午後五時一〇分より午後七時四〇分(Ⅱ本学人文館五階大会議室)

「アイヌとして生きて」

講師 島崎直美(社) 北海道アイヌ協会札幌支部副支部長

「アイヌモシリとキリスト教宣教」

講師 三浦 忠雄（日本キリスト教団北海教区アイヌ民族情報センター主事）

〈南島における民族と宗教〉

公開研究会

二〇〇九年九月十九日（土）午後一時三〇分より午後五時（〓本学人文館五階大会議室）

「琉球処分一三〇年」

講師 我部 政男（山梨学院大学名誉教授）

公開講演会

二〇〇九年十月三日（土）午後一時より午後五時（〓本学第二講義館K三〇一教室）

「薩摩の琉球入り四〇〇年」

「茶と琉球人」

講師 武井 弘一（琉球大学法文学部准教授）

「島津支配化の琉球史像の転回—国家・社会・民衆—」

講師 豊見山 和行（琉球大学教育学部教授）

〈多民族社会における宗教と文化〉

公開研究会

二〇〇九年二月七日（土）午後二時より午後五時（〓本学講義館国際文化学科図書室）

「現代ブータンの環境主義と国民形成——国立公園政策からみた自画像のポリティクス」

講師 宮本万里（北海道大学スラブ研究センター学術研究員）

「夫を亡くした女性たちにとっての「内戦後」…ネパールの事例から」

講師 幅崎麻紀子（山形大学男女共同参画推進室助教）

四 所員消息（二〇〇九年四月—二〇一〇年三月）

浅野 富美枝 教授

著書 細谷実・浅野富美枝他編著『一六歳からのジェンダー論』（はるか書房、二〇一〇年三月）

著書 財団法人みやぎ婦人会館編『礎—みやぎの女—宮城県婦人会館の三八年』二〇一〇年三月

論文「性・セクシュアリティ・生殖と人権の可能性」米田佐代子・大日方純夫他編『ジェンダー視点から戦後史を読む』（大月書店、二〇〇九年十二月）所収

論文「未婚・晩婚・非婚のなにか問題か」北九州男女共同参画センター編『ムーブ』九号（明石書店、二〇一〇年三月）所収

その他「二〇〇八年労働年表 社会文化欄」法政大学 大原社会問題研究所編『日本労働年鑑二〇〇九年版』

（旬報社、二〇〇九年一〇月）所収

講演「ワーク・ライフ・バランスと男女共同参画社会基本法」宮城県人権擁護委員協議会（二〇〇九年七月六日）

講演「高齢社会と女と男」塩竈市ジェンダー市民講座（二〇〇九年一月二八日）

講演「二一世紀のリーダーに求められる力」栗原市男女共同参画推進リーダー養成講座（二〇一〇年一月一三日）
他

今林直樹 教授

論文「『地域』概念の多様化と『地域の再編』——フランスの地域を中心に——」（群馬大学国際教育・研究センター

論集』第九号、二〇一〇年三月）

書評「坂井一成著、『ヨーロッパの民族対立と共生』（芦書房、二〇〇八年、三〇一頁）、中本真生子著、『アルザスと国民国家』（晃洋書房、二〇〇八年、viii＋一九四頁）」（『日仏政治研究』第五号、二〇一〇年三月刊行予定）

書評「比屋根照夫著、『戦後沖縄の精神と思想』（明石書店、二〇〇九年、二七八頁）」（『沖縄研究ノート』一九号、二〇一〇年三月）

井上研一郎 教授

調査報告：「各ジャンルの動向——日本画」（『宮城県芸術年鑑』第34巻・平成20年度）二〇〇九年四月 宮城県環境生活部消費生活・文化課）

調査：北海道岩内町・木田金次郎美術館、同倶知安町・小河原脩記念美術館、同共和町・西村計雄記念美術館ほか 二〇〇九年八月、北海道の美術館活動に関する聞き取り調査。

岩川 亮 准教授

論文「中島敦の出発点 南へのまなざし（2）」（『沖縄研究ノート』18 本学キリスト教文化研究所 二〇〇九年

三月)

論文「南へのまなざし(3)」(『沖繩研究ノート』19 本学キリスト教文化研究所 二〇一〇年三月)

書評「深沢昌夫著『現代に生きる近松』雄山閣」(本学日本文学科「日本文学ノート」第43号)二〇〇八年七月)

発表「南洋幻想と文学 中島敦の場合」(二〇〇九年七月一〇日 本学キリスト教文化研究所南島研究グループ

調査報告会)

調査 沖繩調査 二〇〇八年七月二〇日～二三日

二〇〇八年一月二六日～二八日

二〇一〇年二月二三日～二六日

フランス調査 二〇〇九年三月二〇日～四月二日

二〇一〇年三月

菊池 勇 夫 教授

論文「猪荒れと地域社会―八戸藩名久井通を中心に―」(『ふる里なんぶ』第三号(南部町歴史研究会、二〇〇九年七月)

論文「近世地誌のなかの骨寺・山王窟」(『季刊東北学』第二十一号、東北芸術工科大学東北文化研究センター、

柏書房発売、二〇〇九年一月)

論文「桜の生活文化史―北国の桜―」(連載菅江真澄から近世史をさぐる⑤、『真澄学』五、東北芸術工科大学東

北文化センター、二〇一〇年二月)

論文「地誌考証と偽書批判―相原友直『平泉雜記』の義経蝦夷渡り否定論を中心に―」（『キリスト教文化研究所研究年報』43、二〇一〇年三月）

論文「立木（タテギ）の習俗―近世の奥州南部の事例から―」（東北地方における環境・生業・技術に関する歴史動態的総合研究『平成21年度研究成果報告書』東北芸術工科大学東北文化センター、二〇一〇年三月）

概説「ラッコ（狢虎）島とはどこか」『Arctic Circle』第七三号、北海道北方民族博物館友の会、二〇一〇年三月

講演「道東・千島におけるアイヌの生活世界の変容―日本とロシアの登場がもたらしたもの―」北海道立北方民族博物館、二〇〇九年七月一―八日

講演「江戸の園芸文化と緑環境―染井・巢鴨の植木屋―」安藤昌益と千住宿の関係を調べる会、東京芸術センター、二〇〇九年九月五日

講座講義「仙台藩の田村麻呂伝説―仙台高等専門学校（名取キャンパス）、二〇〇九年十一月七日

九里 順子 教授
講座講義「山野利用と環境」宮城県民大学、宮城学院女子大学、二〇〇九年十一月一二日

論文「〈定位〉という領野―『忘春詩集』論―」（『日本文学ノート』四四号、二〇〇九年七月）

論文「〈文章以前〉からの抒情―『鶴』論―」（『研究年報』四三号、二〇一〇年三月）

森 雅彦 教授

論文「つかのまの展示」としての調度品の美学―メデイチ公国下の二、三の事例を中心に―（『前近代におけ

る「つかのまの展示」研究——科学研究費基盤研究（B）研究成果報告書（研究代表者中村俊春）、京都大学、二〇〇九年三月）

エッセイ「『親指の聖母』への幻想」（『西洋美術研究』No.15、二〇〇九年一二月）

論文「三すくみの美学、あるいは趣味・経済・批評——美術史家の立場から」（『キリスト教文化研究所研究年報』、二〇一〇年、三月）

大平 聡 教授

論文「留学生・僧による典籍・仏書の日本将来——吉備真備・玄昉・審祥——」専修大学社会知性開発研究センター

『東アジア世界史研究センター年報』二号 二〇〇九年三月一七日

論文「宝亀二年閏三月の二通の過状」（『水門 言葉と歴史』二二号 二〇〇九年四月一八日）

論文「ワカタケル——倭の五王の到達点——」鎌田元一編『古代の人物1 日出づる国の誕生』清文堂 二〇〇九年一二月

年一二月

研究ノート「挺身隊覚書」（『仙台市史のしおり』二七 二〇〇九年七月）

研究ノート「前方後円墳の時代の『共有の論理』」（『考古学研究』五六—三 二〇〇九年一二月）

講演会等

「地域の歴史から学ぶ戦争」二〇〇九年五月一六日 泉中山9条を考える会 南中山市民センター

「戦争と学校」二〇〇九年六月一四日 八本松・郡山9条の会 八本松市民センター

パネルディスカッション「戦後のくりでんを語る」二〇〇九年七月四日 鉄道史学会 エポカ21

「安倍氏と陸奥国」二〇〇九年七月九日・二三日 金ヶ崎町民総合大学「文化遺産講座」 金ヶ崎町中央生涯教育センター

「戦時下の学校」二〇〇九年八月二九日「コミュニティいずみ」研修会 泉中央市民センター

「戦争と学校」二〇〇九年九月二八日 宮城憲法会議三〇期特別講座 戦災復興記念会館

みやぎ教育のつどい 教科別分科会「社会科学教育」共同研究者（コメンテーター）二〇〇九年十一月八日

二〇〇九子ども未来をひらくみやぎ教育のつどい実行委員会 フォレスト仙台

「4～6世紀史研究の可能性」二〇〇九年二月二三日 名古屋古代史研究会例会 名古屋大学文学部

「戦時体験聞き取り調査の経験から」東北大学研究所連携プロジェクト第3期二〇〇九年度成果報告会『ヒューマンサイエンス&テクノロジー』二〇一〇年二月八日 東北大学

「日本史の中の安倍氏十二柵」二〇一〇年二月二十日 第七回安倍氏の柵シンポジウム 金ヶ崎中央生涯教育センター

「日本史の中の安倍氏十二柵」二〇一〇年二月二十日 第七回安倍氏の柵シンポジウム 金ヶ崎中央生涯教育センター

育センター

社会的活動

岩手県金ヶ崎町鳥海柵発掘調査指導委員会副委員長 二〇〇九年

多賀城市文化財保護委員会委員 二〇〇九年八月一日～二〇一一年七月三十一日

東北歴史博物館協議会委員 二〇〇九年九月一日～二〇一〇年八月三十一日

新免 貢 教授

論文「神認識の言説——『雷・完全なる心』の場合——」（本学『キリスト教文化研究所研究年報四三号』二〇〇

一〇年三月一日)

分担執筆『キリスト教たち』に対する種々様々な名称の意味を問う——『使徒言行録』を手がかりとして——」
「ペトロの反省——コルネリウス物語を現代にのみがえらせる——」『キリスト教講座二〇〇九——キリスト
教と現代——』(宮城学院キリスト教センター、二〇一〇年三月三一日)

研究会発表

“The AMHAREZ Question and Jewish-Christian Dialogue,” the International Institute for Advanced Studies, Kyoto, April 17, 2009.

講演

「格差への新たな視座——ぶどう園の労働者のたとえを手がかりとして——」(二〇〇九年度全国学生) YM
CA 夏期ゼミナール、東山荘、静岡県御殿場市、二〇〇九年九月二日)

「キリスト教再構築への新たな視座——『使徒行伝』を手がかりとして——」(関西神学塾・『教会と聖書』
共催シンポジウム、日本基督教団西宮公会、兵庫県西宮市、二〇〇九年九月二五日)

「豊かな人間理解の構築に向けて——古代キリスト教文書を通して——」(二〇〇九年十一月一日、一橋大学
学生YMCA主催一橋祭講演会)

海外実地調査

キリスト教再構築の動向に関する資料調査(アメリカ合衆国サンタ・ローザ、サンフランシスコ、バーク
リー、二〇〇九年十月三十一日)

ナグ・ハマディ文書研究に関する研究状況の調査（アメリカ合衆国ニューヨークリンズ、二〇〇九年十一月二〇―二三日）

古代キリスト教諸資料に関する研究の動向調査（イェール大学図書館、二〇一〇年三月二二日―三月二八日）

国内文献資料調査

カルト問題情報・資料収集（恵泉学園大学、二〇〇九年一月一日。真宗大谷派東本願寺、二〇一〇年二月一九―二〇日）

宗教間対話に関する情報・資料収集（大正大学、二〇〇九年十一月七日）

ヘブライ語・ギリシア語文法研究に関する資料収集（二〇〇九年一月二二―二四日、京都国際高等研究所、京都府木津川市）

ホメロス研究、ヴェーダ研究に関する資料収集（二〇〇九年十一月二七―二八日、京都国際高等研究所、京都府木津川市）

古代キリスト教関連資料収集（二〇〇九年七月三―四日、東京大学総合図書館、上智大学図書館。二〇一〇年二月五日、東京大学総合図書館）

ペンテコスタル系キリスト教の動向調査（二〇一〇年二月七日、熊谷福音キリスト教会、埼玉県熊谷市）

田中 一裕 教授

論文「Is early morning adult eclosion in insects an adaptation to the increased moisture at dawn?」(Biological Rhythm Research 二〇〇九年四月)

研究ノート「なぜハエ類は早朝に羽化するのか? ピットンドリッグ仮説の検証」(菅屋大学論叢、二〇〇九年十二月)

講演「家の周りを観察しよう 蜘蛛の生態」宮城いきいき学園仙南校(二〇〇九年六月三日)

講演「家の周りを観察しよう 蜘蛛の生態」宮城いきいき学園石巻校(二〇〇九年六月十七日)

講演「自然の絆―生き物たちのネットワーク」みやぎ県民大学「大学開放講座」(二〇〇九年十一月十九日)

シンポジウム「Adaptive significance of early morning adult eclosion in the onion fly, *Delia antiqua*; To avoid high mid-day soil surface temperature?」文部科学省研究交流センター 3rd International Symposium on the Environmental Physiology of Ectotherms and Plants (二〇〇九年八月二十七日)

学会報告「タマネギバエの羽化リズム: 温度周期と光周期、より強い時刻信号はどちらか?」北海道大学、日本

応用動物昆虫学会(二〇〇九年三月二十九日)

学会報告「クモヘリカメムシの低温耐性と分布北限」北海道大学、日本応用動物昆虫学会(二〇〇九年三月二十九日)

学会報告「マダラヒメグモの休眠ステージ」白山荘、日本昆虫学会東北支部会(二〇〇九年七月二十五日)

学会報告「タマネギバエの羽化リズムの位相におよぼす温度較差と温度レベルの影響」三重大学、日本昆虫学会(二〇〇九年十月十日)

土屋 純 准教授

論文「宮城県丸森町の共同売店「なんでもや」の現状と可能性について」(沖繩研究ノート、一八号、二〇〇九年)

年三月)

共著「情報化時代の流通システムと小売業」『人文地理学』(古今書院、二〇〇九年十月)

書評「川端基夫著『立地ウォーズ―企業・地域の成長戦略と「場所のチカラ」―』(二〇〇八年、新評論) (東アジアの視点、二十卷三号、二〇〇九年九月)

学会発表「宮城県丸森町の共同売店「なんでもや」の現状と可能性について」(二〇〇九年四月十一日、東北学院大学、経済地理学会北東支部例会)

八木 祐子 教授

報告書「マイノリティーとしてのムスリム女性―北インド農村の事例から―」(文部科学省海外学術調査 外川昌彦代表『宗教的マイノリティーと宗教的共存に関する研究』調査報告書、二〇〇九年三月)

研究ノート「マミーの物語―北インド農村からの報告」(宮城学院女子大学キリスト教文化研究所『多民族社会における宗教と文化』研究報告書 No.12、二〇〇九年三月、四十一―五十二頁)

学会発表『『右手に牛フン、左手にモバイル』の時代に何を語るのか』(日本南アジア学会第二十二回全国大会 全体シンポジウム『ともに考えよう!南アジアの考え方・教え方』、北九州市立大学、二〇〇九年十月四日)

研究発表「創出される祭りと都市の変容―ワーラーナシーの事例から―」(文部科学省海外学術調査研究会『南アジアにおける都市の人類学的研究』宮城学院女子大学 二〇〇九年三月二十八日)

海外調査 北インド、ウツタル・プラデーシュ州ヴァラナシ市 二〇〇九年八月二十五日―二〇〇九年九月二十四日、インド北部 ウツタル・プラデーシュ州ヴァラナシ市における都市人類学的研究に関する調査

海外調査 北インド、ウツタル・プラデーシュ州ヴァラナシ市 二〇〇九年十月三十日～二〇〇九年十一月五日、インド北部 ウツタル・プラデーシュ州ヴァラナシ市におけるディーブ・ディワリー祭に関する調査
割 田 聖 史 准教授

論文「プロイセン国家における国民代表制導入をめぐる―第8回ライン州議会（一八四五年）の議論から―」

『宮城学院女子大学研究論文集』一〇九号（二〇〇九年二月）

論文「ヴェストファーレン州議会における国制議論」『人文社会科学論叢』一九号（二〇一〇年三月）

論文「ポーゼン州のユダヤ教徒の法的地位（一八一五―一八四五）に関する一考察 ポーゼン州議会における議

論と一八三三年の暫定規定から」『キリスト教文化研究所研究年報：民族と宗教』四三号（二〇一〇年三月）

論文「異化と統合のはざままで―帝都ベルリンのポーランド人」『国民国家の比較史』（仮題）（有志社、二〇一〇年三月）

論文「『境界地域』を叙述する―オストマルク協会編『ドイツのオストマルク』（一九一三年）を読む―」『群馬

大学国際教育・研究センター論集』第九号（二〇一〇年三月）

書評「近藤健一郎『近代沖縄における教育と国民統合』（北海道大学出版会、二〇〇六年）」『沖縄研究ノート』

一九号（二〇一〇年三月）

講演「国境を越えたひとびと―ポズナンのバンベルの事例から―」（東北学院大学ヨーロッパ文化研究所オープン・

リサーチ・センター）「ヨーロッパアン・グローバリゼーションと諸文化圏の変容」

公開シンポジウム「近代ヨーロッパを読み解く―地域から見た国民国家」、二〇〇九年一月三十一日、東北学院

大学土樋キャンパス8号館押川記念ホール)

史料・文献紹介「ジョン・C・トーパー『バスポートの発明―監視・シテイズンシップ・国家』藤川隆男 監
訳(法政大学出版局、二〇〇八年二月)」「『歴史学研究』八六二号(二〇一〇年一月)